

令和4年度 奈良県立西の京高等学校 学校評価総括表

【高等学校用】

年度	令和4年度(中期計画1年目)
本校の使命(スクール・ミッション)	地域の課題解決や発展に寄与する人材の育成
年度重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における基礎・基本の定着を図る。 ・生徒の主体的活動を促すとともに基本的な生活習慣の確立を図り、正しい判断力を持った生徒を育成する。 ・地域とともにある学校づくりを推進し、豊かな社会性やコミュニケーション能力を養う。 ・学校の教育活動に関する広報を一層充実させる。

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針(スクール・ポリシー)	<p>本校では、広い視野に立ち、可能性を追求し、自ら考える力を身に付け、問題解決や目標達成に向けた思考力・判断力・表現力をもった創造力豊かな人間の育成を教育方針とし、その実現のために以下の教育を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 きめ細やかな個別指導を通して、個々の基礎学力の定着を図る。 2 ひとりひとりの進路適性に応じた特色ある教育課程の編成に努める。 3 生徒の主体的・継続的な活動を積極的に評価し、生涯にわたる学習の基礎を培う。 4 生徒の活動意欲を高め、進路実現に供するために活動の場をひろげ、高大連携やボランティア活動等の連携を積極的に進める。
育成を目指す資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)	<p>本校では、卒業までに、以下の資質・能力の育成を目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 体験や活動を通じた主体的・対話的で深い学びにより、地域を支えることができる。 2 自分の興味・関心・特技をいかして、地域の課題を理解し、課題解決や地域の発展に寄与することができる。 3 自己を客観化する力(自己洞察力)を身に付け、自己実現に向かって意欲的に取り組むことができる。

2 奈良県教育振興基本計画(「奈良の学び推進プラン」)が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標(A)	計画期間における具体的目標(B)	令和4年度末の目標値等(C)	令和4年度末の状況(D)	自己評価(E)	学校関係者評価(F)	改善方策(案)
1. ころと身体を子どもの成長に合わせてはくむ	体力の向上	体育科と連携を図り、健康の保持・増進、体づくりに努め、健康力を身につけさせる	スポーツテスト平均Tスコア50.0以上	コロナ禍の中、昨年度に比べ今年度は体育の授業が予定通り実施できた。また、体育大会等体育的行事についても概ね満足いく実施状況である。	特に学校行事の充実を目標に取り組んだ1年であったが、体力の向上を目標に授業をはじめ体育的行事についてもよく取り組めた。	身体を作る時期に体育の授業が再開されて良かった。体育大会の実施は精神面や心の成長にとても良かったと感じた。	スポーツテスト平均Tスコアの向上を目標にしたが、目標達成のための具体的な方策を今一度検討する必要がある。
	望ましい食習慣の確立	基本的な生活習慣を確立させ、朝食の摂取率90%以上	朝食摂取率90%以上	目標値の達成状況把握のための取り組みが不十分であり、自己評価するのに困難な状況である。	従来、保健の授業の中で取り上げることが多く、そういう意味で今年度は保健の授業がなく取り組みが不十分であった。	社会に出て、自分の身体のことを考え、自分のためにバランスの良い食生活が送れるようになってほしい。	目標達成のための具体的な取り組みと評価の実施を考える必要がある。
2. 学ぶ力、考える力、探求する力をはくむ	主体的・対話的な学びにむけた授業改善	授業アンケートの結果、「授業に満足している」が80%以上	授業アンケートの結果、授業満足度80%以上	授業アンケートの結果、80%を超える生徒が授業に満足していると回答し、進路実現に向けて主体的・自主的に学習に取り組んだ。	3年生ということもあり、主体的・自主的に学習に取り組む姿勢が見られたが、対話的な活動に対してはやや消極的な者が多かった点に課題を残した。	消極的な生徒に対し、個々に沿った指導を行ってほしい。プレゼンテーション等で、積極的に行動してほしい。	発表に向けた話し合いやディベートなど、人との対話を主とした学習活動を積極的に取り入れる必要がある。
	進路実現に向けた学習意欲の向上	基礎診断テストの結果を活用し、学習意欲の喚起を図る	基礎診断テストにより学習意欲の喚起を図る	模試の成績を活用し、生徒の実力向上に何をすべきか考え、指導を行った。また、西の京高校がどのような程度達成できたと思われる。だが、模試の復習などの指導を行うべきなのか教員間で研修を行った。	研修を行ったり、生徒たちに模試の活用を促したりなどをしたので「学習意欲を向上させる」という目標はある程度達成できたと思われる。だが、模試の復習などの指導については不十分な結果であったといえる。	個々の生徒の進捗を見極め、積極的に指導が必要と思う。模試等の結果に対し、教員からのアドバイスが必要と感じる。	模試の復習方法や、予習方法について学年間で共有を行い、学校全体で指導の方針を作っていく必要があると思われる。
	オンライン教育・ICT活用の推進	ICT機器を利用し、自宅でのオンラインやハイブリット授業を行い、オンラインでの教材の活用を実践する	ICT機器を利用し、自宅でのオンラインやハイブリット授業を行い、オンラインでの教材の活用を実践する	全教科において、ICT機器を利用した授業や、オンラインでの教材の活用を実践する	Chromebookの活用により、授業のオンライン対応を十分に行うことができた。Google Forms等により、授業内容の復習を行わせるなどの実践も行った。	ICT機器の活用にも慣れてきて、オンライン授業にもスムーズに対応できるようになった。ただし本校には電子黒板が導入されていないので、それに対応した教材の作成は不十分であった。	リモート授業の切り替えの難しさはあったと思う。
3. 働く意欲と働く力をはくむ	進路や仕事に対する理解を深める	進路ガイダンス、講演会を2回以上実施する	進路ガイダンス、講演会を2回以上実施する	保護者説明会、学びみらいPASS説明会、学校別進路説明会、夏季大学別入試対策説明会、大学入試説明会・面接練習会など5回進路のイベントを実施し、生徒たちの進路に関する意欲の向上に努めた。	夏季の大学別入試説明会など、いままで行っていなかったイベントを追加して実施することができた。その点では、意欲的に分掌として取り組みを行ったと思われる。	生徒が自分から説明会に参加することは少ないので、イベントの企画は良かったと感じる。	生徒たちの意見、希望を聞き取ることでより充実したイベントの実施につながると思われる。
	就職希望者のミスマッチを防ぐ	応募前職場見学会に教員が引率し希望職種とのミスマッチを防ぐ	応募前職場見学会参加率100%、就職率100%	一般企業志望者、公務員志望者共に内定率100%を達成した。面接練習や職場見学会にも生徒達は意欲的に参加した。	就職希望者の全員が第1志望の就職先に内定したので「ミスマッチを防ぐ」という目標は達成できたと考えた。また職場見学会参加率と就職率共に100%を達成した。	就職希望者の生徒が、希望通りの進路選択ができて良かった。	就職試験に関する研修等を教員対象に行えば良かったと思う。
4. 地域と協働して活躍する人を育てる	地域の課題発見と課題解決に向けた提言	学習活動の成果を学校ホームページ等を通じて積極的に校外に発信する	課題研究の成果を各自4000字程度の小論文にまとめ、地域に提言する	コロナ禍の影響が残る中、可能な範囲でのフィールドワークを行ってデータを集め、各自4000字を超える小論文に自論をまとめあげた。	地域創生コースの「地域との協働により、自己の能力の向上に努める」という目標は、概ね達成することができた。ただ、報告書作成にあたって、データの分析力と文章表現力には課題を残した。	地域創生コースの活動が行えたことは良かったと思う。今後は、報告書等の作成のスキル向上を高めてほしいと思う。	データに基づいて考える力、自論を論理的に表現する力を、今後の学習で身につけさせる必要がある。
	地域との協働を推進	生徒の活動意欲を高め、ボランティア活動等との連携を積極的に進める	これまで継続してきた地域との連携事業を継続し、ボランティア活動に、延べ100人以上参加	年間を通じて、延べ230人を超える生徒が、各種ボランティア活動に意欲的に参加した。	ボランティア活動への参加を通して、社会参加や地域貢献の必要性を認識させることができた。ただ、地元自治会との協働が少なかったことは残念である。	地域でのボランティア活動が行えたことは良かったと思う。	高校卒業後も積極的に奉仕活動に参加する姿勢を維持するよう指導しておく必要があると思われる。
	生徒のICT活用能力の向上	授業における発表に各種ソフトの活用を進める	授業における発表に各種ソフトの活用を進める	各種ソフトの活用能力を50%以上は向上させる	地域創生コースの生徒は、課題研究で毎週パソコンを操作し、スキルアップが図れたが、文理コースの生徒は限られた回数の活用にと終わった。	1人1台の端末所有という状況ではない中で、できる限りの活用努力をしていたと思う。3年生で受験優先となり、やむを得ないと考ええる。	学校でのPCを利用する授業が少なかった。今後、社会での流れに対応できるか心配である。
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる	登下校時の安全指導と苦情件数の減少	交通事故等(特に自転車通学者)の減少目標に、安全教室等を企画する	公共の交通マナーを向上させる	本年度の交通事故件数は3件と、昨年度に比べ減少した。規範意識が高まった結果だと考える。それに伴い苦情もこの1年はほぼ無かった。	大きな怪我の事故がなく終えることができた。非常に満足である。	通学路の状況を常に教員が確認していたことはありがたかった。	事故が起こさないのも大事だが、起こった時の対応を指導しなければならない。適切に対応できていない場面があった。
	人権教育学習資料の活用	校外研修の内容や人権教育にかかわる情報を共有し、職員研修を年1回以上実施する	性的マイノリティについて理解を深める	今年度の人権教育に関する職員研修は教育相談・生徒指導とリンクさせた形で職員研修を1回おこなった。	学校の最終年度、第3学年のみとなり、生徒・教員が減っている中で職員研修を考え、実施し成果を収めた。	多様性を尊重する世の中なので、生徒への人権教育の機会を増やしてほしい。	他に実施可能な方法を模索すればよかったが、次年度に繋げる対象がないのが残念である。

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

本校は令和4年度末で閉校をするが、これまで培ってきた教育資源を活用し、今後は他校での生徒の育成のために生かせるよう取り組んでいきたい。特に、本校がこれまで目指してきた学校像「地域に根ざし、学び合い、育ち合う学校」は、今後の地域連携を目指す学校に引き継がれていくと考える。